

ノ高峯ノ雪消テ、水ノカサハ増共、水ノ減事有ベカラズ、足利又太郎忠綱モ、高倉宮ノ御謀叛ノ御時ハ、渡セバコソ渡ケメ、鎌倉殿ノ御前ニテ、サシモ評定ノ有シハ是ゾカシ、始テ驚ベキ事ニ非、兼テノ馬用意其事也、重忠渡シテ見參ニ入ント云處ニ、平等院ノ小島崎ヨリ武者二騎蒐出タリ、梶原源太ト佐々木四郎ト也、○下

〔陸西遊行囊抄〕桂川。是ハ西庄邑ト牛瀬邑ノ間、船渡ナリ、歩渡ニモスル川也、桂ノ渡ト云ハ是ヨリ川上ニ下桂邑ノ前ニアリ、下桂邑上桂邑トテ二邑アリ、下桂邑ハ西七條ヨリ、大原松尾ノ路ヲヘテ丹波、峰邑へ行順次ナリ、前冊ニ記、此川上ハ大

〔諸州めぐり〕桂川、舟にて渡る、此河水いといさぎよし、故に都より爰に來て布帛を洗ひさらすものおほし、宋景濂が日東の曲に、渭水西流曲似釣といへるは此川なるべし、是より松尾の社右にみゆ。

〔書言字考節用集〕一
〔乾坤〕木津川。木津川カ、樂郡相

〔南遊行囊抄〕木津渡、舟渡川、此川ハ源伊州堺ヨリ出テ、笠置ノ邊ヲ流、此渡ニ到、淀大橋ノ下ヲ過、大坂川口又神崎川ニ分流シテ大洋ニ入大河ナリ、此所ニテハ木津川ト云、賀茂ノ渡ノ邊ニテハ木津川ト云、笠置ノ邊少川上ニテ川船ノ往來アリ、昔ハ此渡ヲ猶ノ渡ト云、今ハ木津ノ渡ト云也、

〔宮川國伊勢〕

〔倭訓栞〕和度會川伊勢

木集にわたりあひ川とよめるは即度會川也、りあ反ら也、度會川は延喜式に見ゆ、萬葉集に度會の大川の邊とも見ゆ、今の宮川也もとは阿部川といひしとぞ、

〔神風行囊抄〕宮川、一名豊宮川、一名度會川、尾畠ノ町ノ出口ニアリ、船渡ナリ、是所ハ豊受大